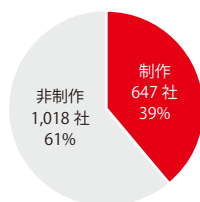


財翻研究部調査：東証1部上場企業の英文開示の現状

“失われた20年”という言葉がマスメディアに取り上げられる昨今ですが、この間外国人投資家の存在は、着実に確固たる地位を築くに至っています。来るIFRS導入時代にあっては、会計基準だけでなく、当然のごとく、言語としてもIR・ディスクロージャーコンテンツの和・英での開示が当たり前の時代になります。すでに外国人持株比率の高い企業を中心に、和・英開示が進んでいます。ここでは、財翻研究部の調査をもとに、その現状をご紹介します。



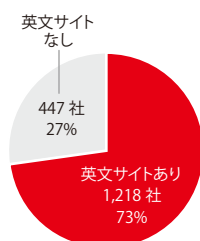
英文Annualレポート制作状況

東証の発表によると外国人持株比率はこの20年で**3.1%** (1989年)から**22.5%** (2009年)に増加する中、東証1部上場企業1,665社中、英文Annualレポートを制作している企業は**647社** (39%)に及んでいます。

英文Annualレポート制作企業のプロフィール

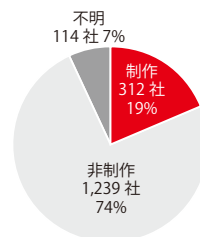
647社における外国人持株比率の平均は**18.5%**となっています。また、時価総額の平均は**4,254**億円となっています。

英文Annualレポート制作企業の外国人持株比率の平均が市場全体の同比率より低いのは、Annualレポートが営業目的でも制作されているためと思われます。



英文ウェブサイトの構築状況

東証1部上場企業1,665社中、英文ウェブサイトを開設しているのは**1,218社** (73%)。また、英文Annualレポートを制作している企業については**93%**が英文のウェブサイトを併設しています。



英文招集通知制作状況

東証1部上場企業1,665社中、英文招集通知を制作している企業は**312社** (19%)となっています。英文Annualレポートを制作している企業についてはその**40%**が英文招集通知を制作しており、その企業の平均外国人持株比率は**26.5%**、平均時価総額は**8,094**億円となっています。

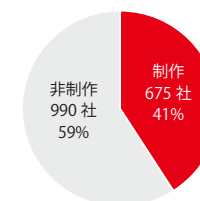
英文招集通知の制作範囲

英文招集通知の構成要素を調べた結果がこのグラフです。**312**社中、**142社** (45%)が全ての要素を英訳している【全訳】タイプ、さらに、**160社** (52%)が【部分訳】タイプで制作しています。【部分訳】タイプで多いのは【狭義と参考書類】タイプで、その半分以上を占めています。



翻訳のタイプと企業プロフィールの詳細は以下の通りです。

	タイプ別平均外国人持株比率 (%)	タイプ別平均時価総額 (億円)
【全訳】タイプ	28.2	10,074
【狭義と参考書類】タイプ	23.0	4,476

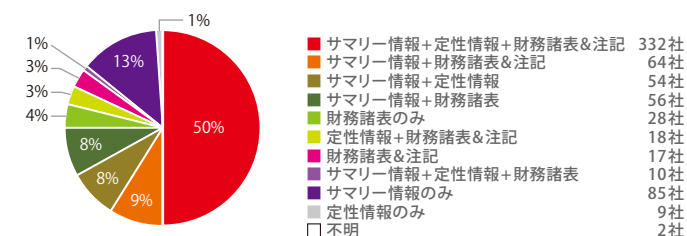


英文決算短信制作状況

東証1部上場企業1,665社中、英文決算短信を制作している企業は**675社** (41%)となっています。英文Annualレポートを制作している企業についてはその**68%**が英文決算短信を制作しており、その企業の平均外国人持株比率は**21.9%**、平均時価総額は**5,646**億円となっています。

英文決算短信の制作範囲

英文決算短信の構成要素を調べた結果がこのグラフです。**675**社中、**332社** (50%)がサマリー情報、定性情報、財務諸表、注記全ての要素を英訳(それぞれの構成要素が部分訳の場合もあり)している【全訳】タイプです。【部分訳】タイプで多いのは【サマリー情報のみ】で**85社** **13%**、それに続くのが【サマリー情報と財務諸表&注記】【サマリー情報と定性情報】【サマリー情報と財務諸表】で、それぞれ**9%**、**8%**、**8%**となっています。



翻訳のタイプと企業プロフィールの詳細は以下の通りです。

	タイプ別平均外国人持株比率 (%)	タイプ別平均時価総額 (億円)
【全訳】タイプ	20.9	5,931
【サマリー情報のみ】タイプ	13.0	1,277
【サマリー情報と財務諸表&注記】タイプ	19.1	4,319
【サマリー情報と定性情報】タイプ	16.6	1,413
【サマリー情報と財務諸表】タイプ	16.8	2,226